

2021年4月9日 全8頁

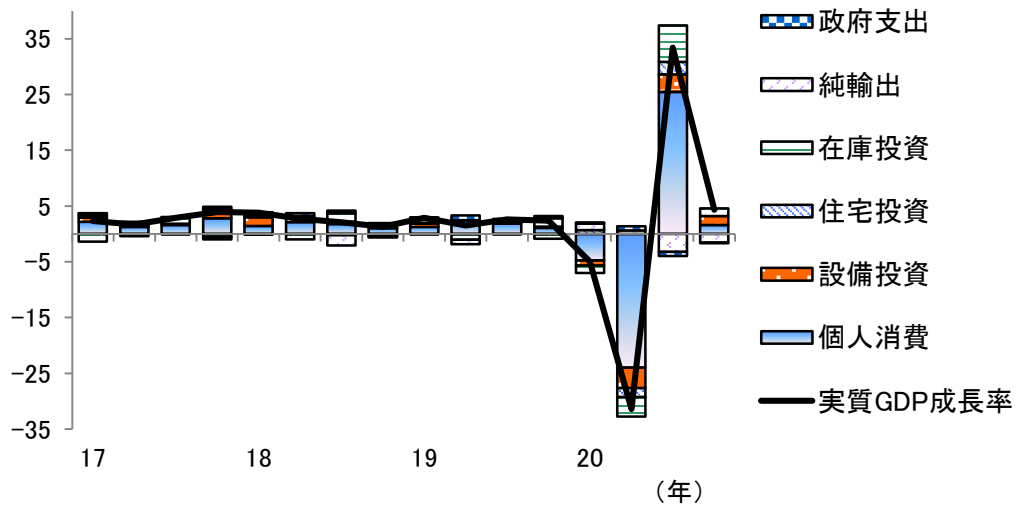
アメリカ経済グラフポケット (2021年4月号)

2021年4月7日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター 上野 まな美
研究員 矢作 大祐

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



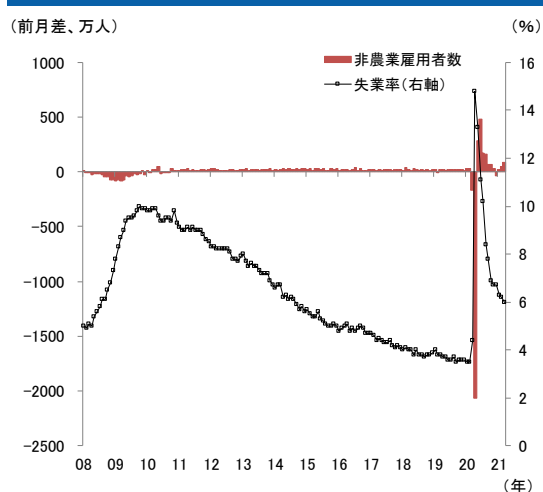
(前期比年率、%、%pt)	2019				2020			
	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12
国内総生産	2.9	1.5	2.6	2.4	-5.0	-31.4	33.4	4.3
個人消費	1.8	3.7	2.7	1.6	-6.9	-33.2	41.0	2.3
設備投資	4.2	0.0	1.9	-0.3	-6.7	-27.2	22.9	13.1
住宅投資	-1.7	-2.1	4.6	5.8	19.0	-35.6	63.0	36.6
政府支出	2.5	5.0	2.1	2.4	1.3	2.5	-4.8	-0.8
輸出	1.8	-4.5	0.8	3.4	-9.5	-64.4	59.6	22.3
輸入	-2.1	1.7	0.5	-7.5	-15.0	-54.1	93.1	29.8
寄与度								
個人消費	1.3	2.5	1.8	1.1	-4.8	-24.0	25.4	1.6
設備投資	0.6	0.0	0.3	0.0	-0.9	-3.7	3.2	1.7
住宅投資	-0.1	-0.1	0.2	0.2	0.7	-1.6	2.2	1.4
在庫投資	0.2	-1.0	-0.1	-0.8	-1.3	-3.5	6.6	1.4
政府支出	0.4	0.9	0.4	0.4	0.2	0.8	-0.8	-0.1
輸出	0.2	-0.5	0.1	0.4	-1.1	-9.5	4.9	2.0
輸入	0.3	-0.3	-0.1	1.1	2.3	10.1	-8.1	-3.6

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

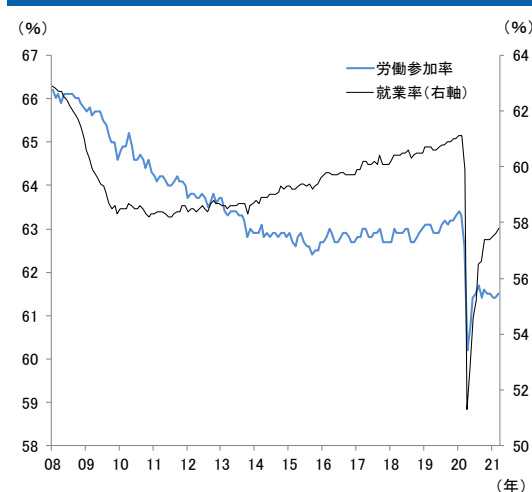
雇用環境¹

- ◆ 3月の失業率は6.0%となり、前月から0.2%pt低下した。失業率は改善が続いているものの、依然として高水準である。
- ◆ 3月の非農業部門雇用者数の前月差は91.6万人増となった。新型コロナウイルスワクチン接種の拡大や政府の追加経済対策法の成立が追い風となり、雇用環境の回復ペースが加速し、2020年8月以来の大幅な伸びとなった。
- ◆ 非農業部門雇用者数の前月差の6ヵ月平均は37.6万人増となった。

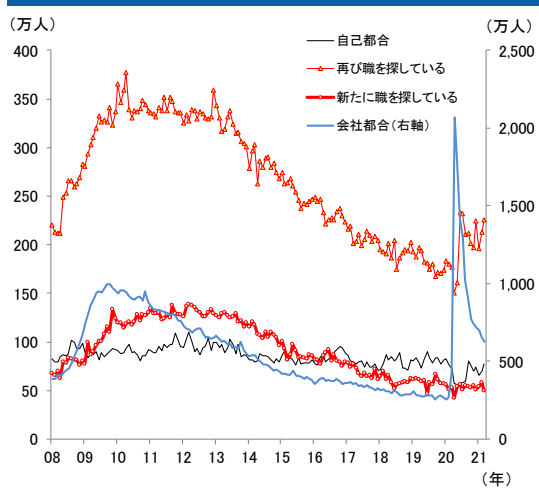
非農業雇用者数と失業率



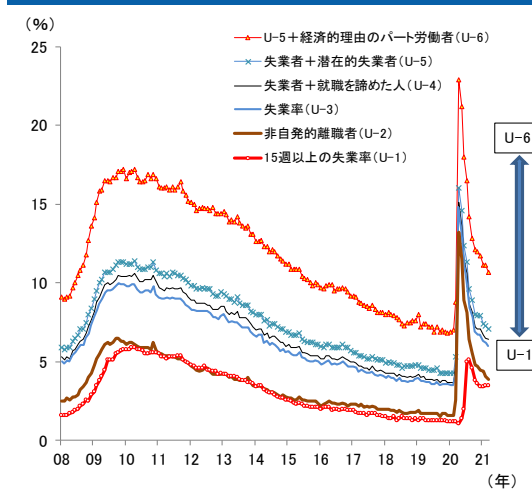
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

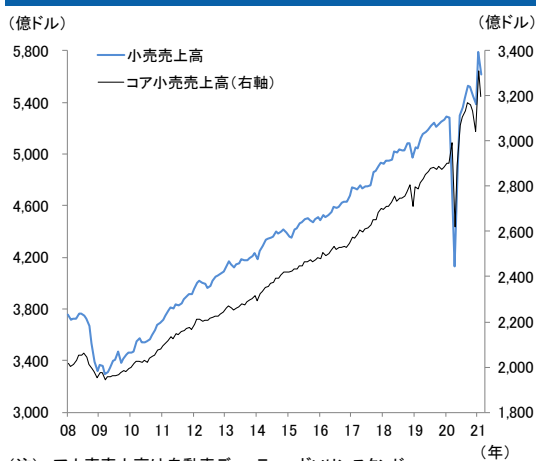


¹ 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「雇用者数は前月差+91.6万人と急増」(2021年4月5日) 参照。 https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210405_022202.html

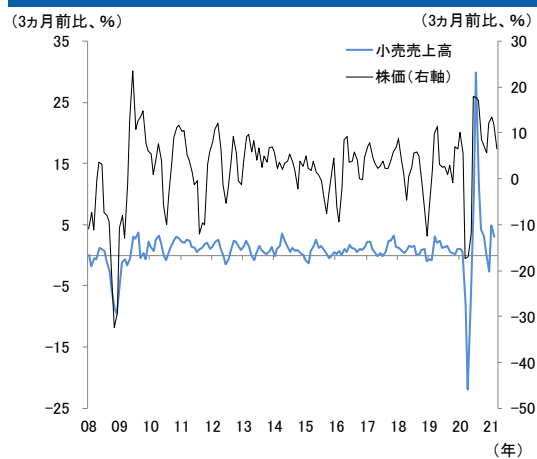
個人消費

- ◆ 2月の小売売上高は前月比3.0%減となった。大雪や極寒で人々の外出が抑制されたほか、大幅増となった前月の反動などにより、大幅な減少に転じた。コア小売売上高も同3.5%減少し、2020年4月以来の大幅減となった。
- ◆ 3月の自動車販売台数は前月比12.6%増加し、年率換算で1,808万台となった。政府による現金給付や、中古自動車の値上がり等新車販売の押し上げ要因となったものとみられ、前月から急速に回復し、2005年7月以来の高水準を記録した。
- ◆ 3月のロイター/ミシガン大消費者センチメントは、前月の76.8から84.9に上昇した。追加経済対策法案の成立やワクチン接種の拡大などが消費者マインドを押し上げ、3ヵ月ぶりに上昇し、2020年3月以来の水準となった。

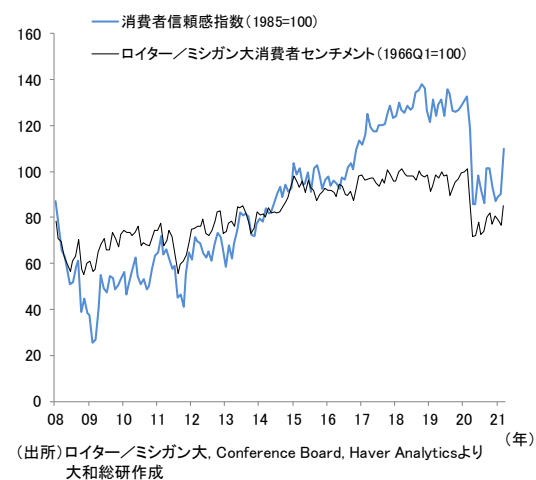
小売売上高の推移



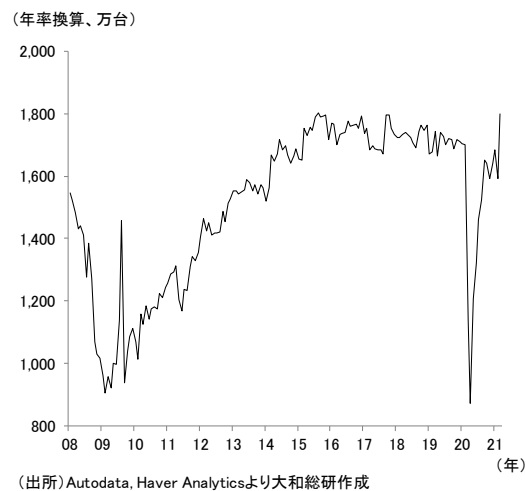
消費と株価



消費者マインド



自動車販売台数



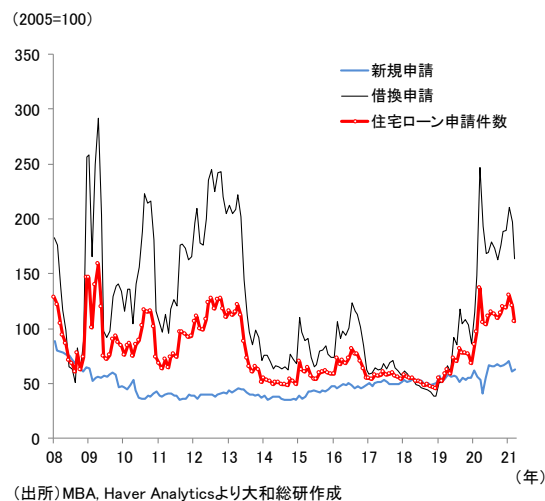
住宅市場

- ◆ 2月の新築住宅着工件数（一戸建てと集合住宅を含む）は、前月比10.3%減の年率換算142.1万戸となった。低水準な住宅ローン金利などにより新規住宅の需要が高まっているものの、大雪や極寒が影響し、2ヵ月連続で減少した。
- ◆ 2月の中古住宅販売件数（一戸建て）は、前月比6.6%減の年率換算552.0万戸であった。大雪や極寒の影響に加え、記録的在庫不足を背景に、2ヵ月連続で減少した。
- ◆ 2月の新築住宅販売件数（一戸建て）は、前月比18.2%減の年率換算77.5万戸であった。木材価格の急騰などで新築住宅の着工に遅れが出ており、在庫不足から2020年5月以来の低水準となった。
- ◆ 1月のケースシラー住宅価格指数（20都市）は、前月から1.2%上昇した。低水準な住宅ローン金利が消費者の購買意欲を高めたことや、住宅在庫の不足が住宅価格の上昇の要因となっており、高い伸びが続いている。

住宅販売（一戸建て）



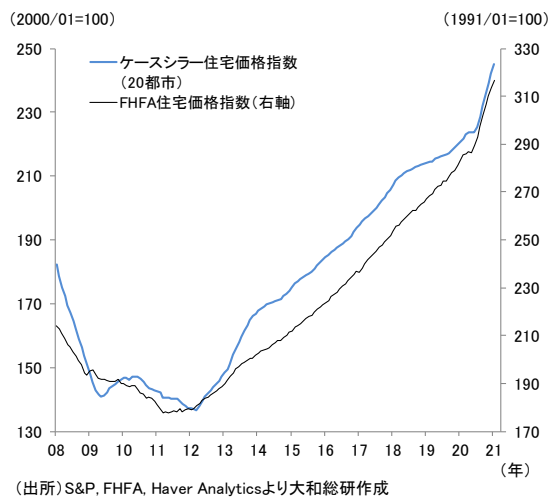
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者の景況感



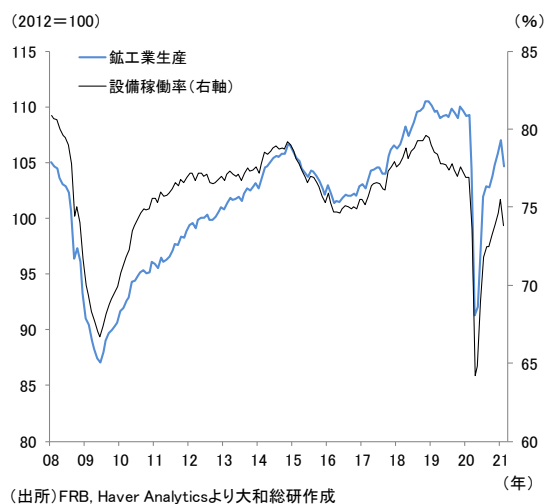
住宅価格



企業動向

- ◆ 2月の鉱工業生産指数は前月比2.2%低下し、5ヵ月ぶりに低下に転じた。大雪や極寒による暖房需要の増加で公益は大きく上昇したものの、生産指数全体の約75%を占める製造業(SICベース)が同3.1%低下したほか、鉱業も低下し、全体指数を押し下げた。
- ◆ 2月の国防・民間航空機を除く資本財受注(コア資本財受注)は、前月比0.9%減となった。増加基調が続いていたが、大雪や極寒による悪天候が響き、10ヵ月ぶりに減少に転じた。
- ◆ 3月のISM製造業指数は前月から3.9%pt上昇の64.7%となった。内訳の新規受注が大きく伸びたことなどから2ヵ月連続で上昇し、1983年12月以来、約37年ぶりの高水準となった。非製造業指数は前月から8.4%pt上昇の63.7%となった。政府の追加経済対策やワクチン接種の拡大などが押し上げ要因となり、前月から大きく回復し、統計開始以降で最高水準を記録した。

鉱工業生産と設備稼働率



企業の景況感



製造業の出荷・在庫



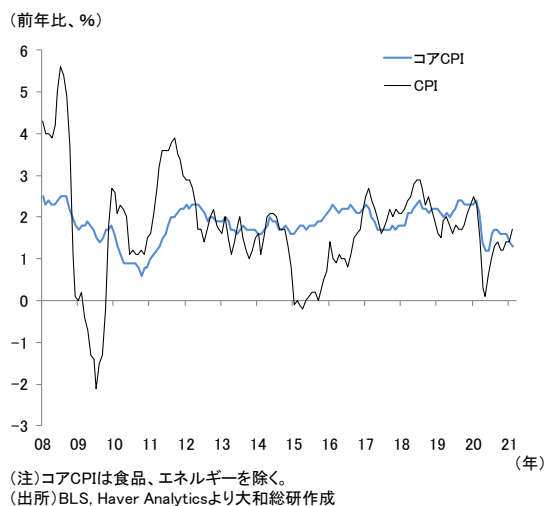
耐久財受注



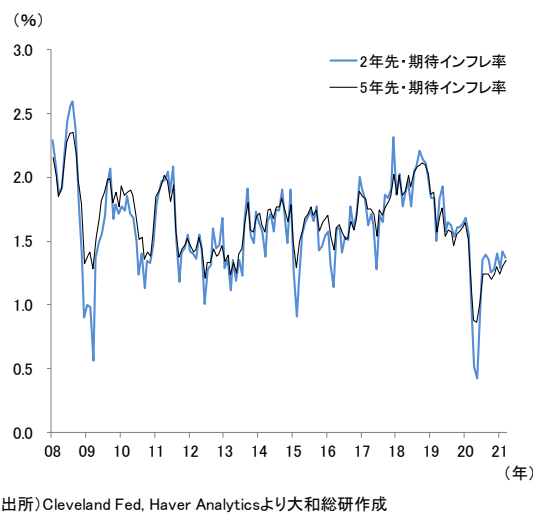
物価動向

- ◆ 2月のCPI（消費者物価指数）は前年比1.7%上昇した。ガソリン価格の上昇が影響し、前月から上昇幅が拡大した。コアCPIは同1.3%上昇したものの、前月から上昇幅が縮小した。
- ◆ 3月の2年先期待インフレ率は1.37%と前月から低下したが、5年先期待インフレ率は1.35%で前月から上昇した。
- ◆ 3月末のWTI原油先物価格は59.16ドル/バレルとなり、2月末の61.50ドル/バレルから低下した。3月上旬から中旬にかけて価格が上昇基調にあったものの、欧州における新型コロナウイルス感染再拡大で景気回復の遅れが懸念されたほか、スエズ運河の運航が月末に再開したことにより、下旬にかけて低下し、月末値は前月を下回った。

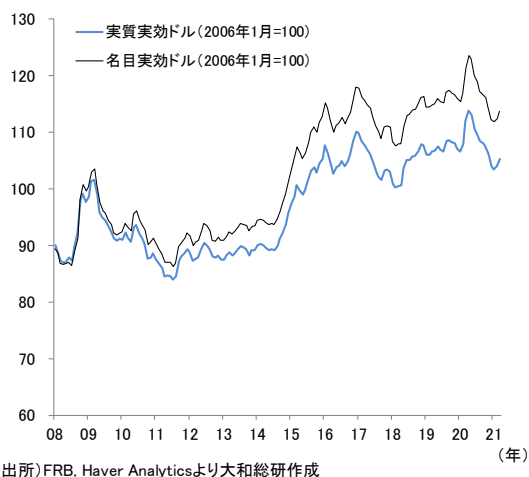
消費者物価指数



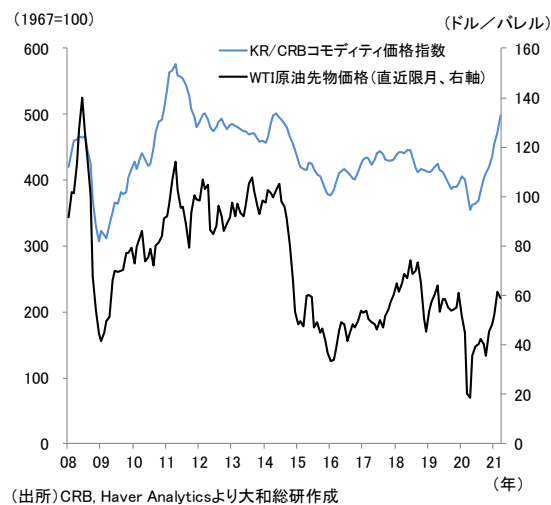
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



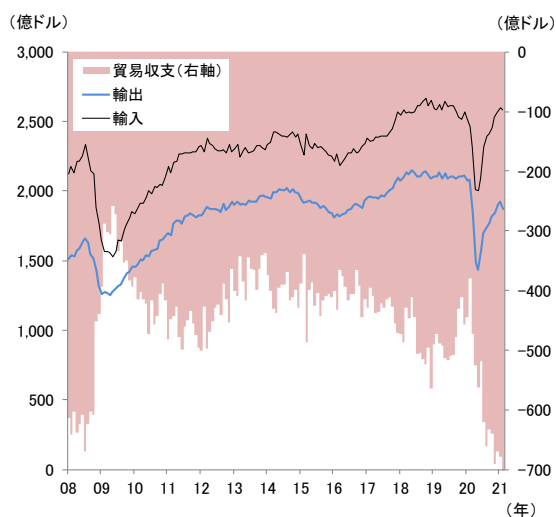
コモディティ価格



輸出入・経常収支

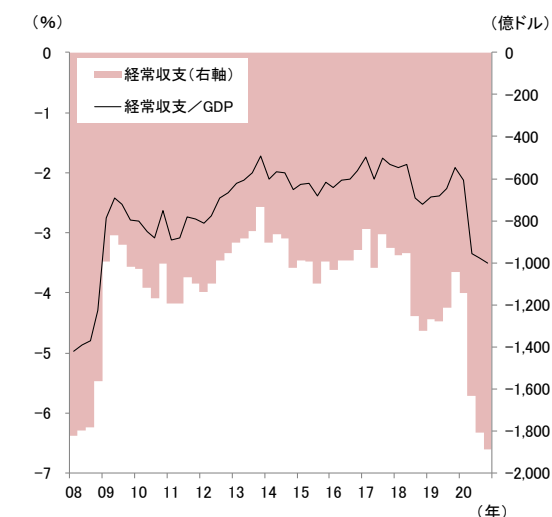
- ◆ 2月の貿易収支（財・サービス）は、輸出が前月比2.6%減少し、輸入も同0.7%減少した。この結果、貿易赤字は同4.8%増の711億ドルとなり、2ヵ月連続で拡大した。
- ◆ 輸出入（財）を商品別に見ると、輸出ではその他産業機械などの資本財が主に減少し、輸入においては自動車・同部品・エンジンの減少が目立った。
- ◆ 地域別（財）では、中国向けは同38.1%増と7ヵ月連続で二桁台の大幅増となったが、日本向けの輸出は同13.9%減、欧州向けも同14.7%減少した。欧州向けの輸出は、2020年3月以来減少が続いている。輸入は、欧州からの輸入が同8.7%増、中国からの輸入は同49.2%増と5ヵ月連続で二桁台の高い伸びとなった一方で、日本からの輸入は同13.1%減少した。

貿易収支動向



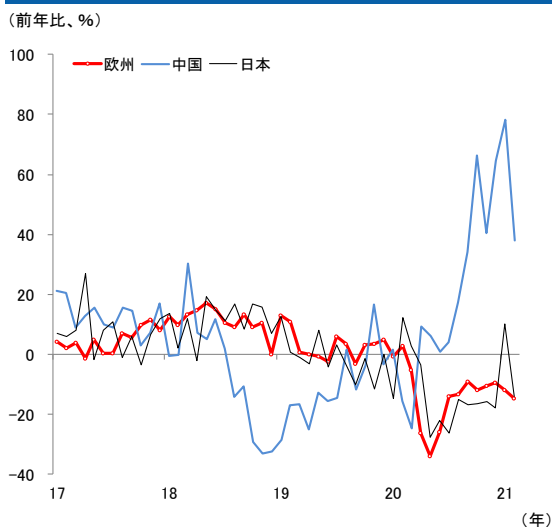
（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

経常収支の推移



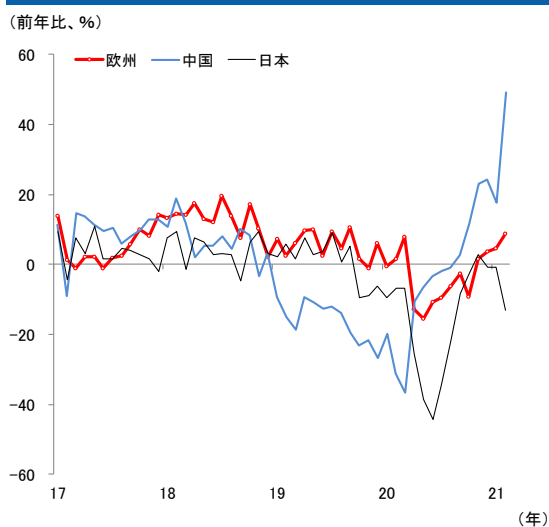
（出所）BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸出動向



（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

国・地域別輸入動向

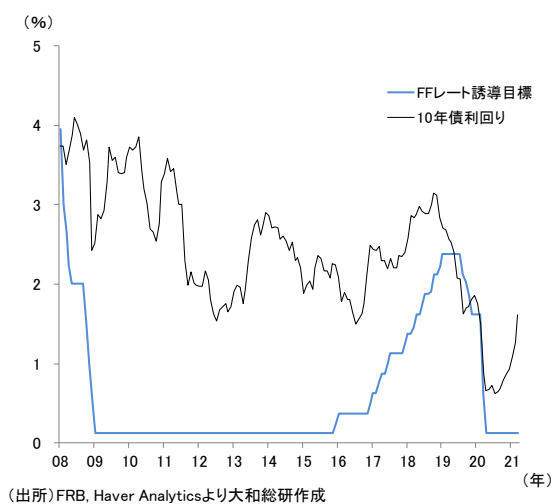


（出所）Census, Haver Analyticsより大和総研作成

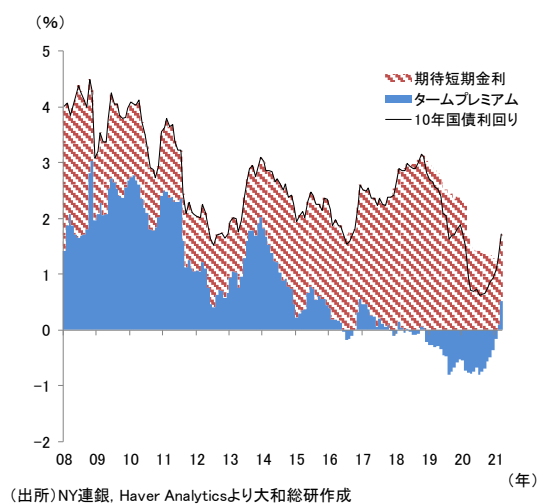
金融・財政

- ◆ 3月のFOMC（連邦公開市場委員会）において、政策金利であるFF（フェデラルファンド）レートの目標レンジが0.00-0.25%で据え置かれた。また、国債などの購入規模を変更しないことが決定された²。3月31日の週のFRBの資産残高は、平均で約7兆7,300億ドルであった。
- ◆ 3月の長期金利（10年債利回り）の月中平均値は1.61%と前月から上昇した。追加経済対策法案の成立による景気回復加速への期待、その結果としてインフレへの警戒感が高まり、長期金利は下旬にかけて急速に上昇し、月中平均値は2020年1月以来の高水準となった。
- ◆ 連邦政府の財政収支（12ヵ月平均）については、新型コロナウイルス経済対策による歳出増加のため、赤字幅が高水準で推移している。

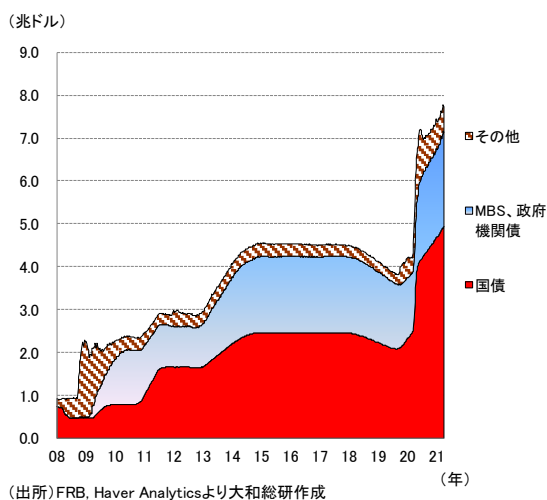
政策金利・長期金利



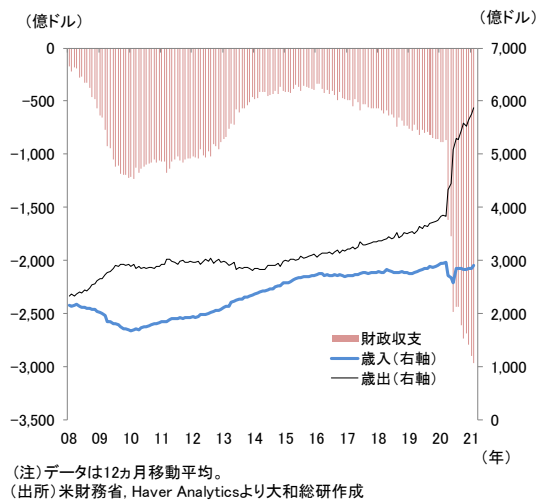
タームプレミアム(10年)



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支



² 大和総研レポート ニューヨークリサーチセンター 矢作大祐「FOMC ポストコロナに向け開始のゴング鳴る」(2021年3月18日)参照。

https://www.dir.co.jp/report/research/economics/usa/20210318_022166.html